



沖縄の面白い不思議なこと Part 2

学校便り 35号では沖縄の面白い不思議なことを取り上げました。今回の36号でも引き続き書いています。私たちの足下には沢山の不思議なことがあり、普段生活して当たり前に見聞きしていることでもよく見て、考えると面白いことが沢山あります。他都道府県や外国、あるいは昔と比較してみると案外、面白いことが発見できるかもしれません。今回も Part2 として書いてみました。学習する素材は、学校の勉強だけではもったいないですね。

沖縄のオノマトペ

オノマトペって知っていますか？ものの音や声などをまねた擬声語（ざあざあ、じょきじょきなど）、あるいは状態などをまねた擬態語（てきぱき、きらきらなど）をさすことばと言えますイメージがつかめますね。ある言語学者の定義によると「感覚やイメージを写し取る、特徴的な形式を持ち、新たに作り出せる語」とされています。少し難しい表現ですが、音や様子を「写し取る」ことがポイントだと思います。

このようなオノマトペは日本だけでなく、外国にもあり、そして沖縄にもあります。胸がドキドキする様子を「チムドンドン」といい、料理では「にんじんシリシリ」、慌てる様子を「アワティーハーティー」べたべたする様子を「タックアイムックワイ」、あつい料理など「アチコーコー」などがあります。

沖縄のオノマトペは共通語に訳すとしっくりこないこともあります。「アチコーコー」は熱いとはイメージが違って感じます。このような違和感はその人の年齢や育った地域によっても違ってくると思います。ことばは、生活に根ざしたもので、変化していくものでもあります。沖縄独特の言い回しを、私たちが使い続けることも



沖縄のシーサー

シーサーは沖縄の伝統的な守り神で、最近はユニークな表情をしたシーサーもあり、マスコットのようにもなっています。そんなシーサーについて少し深掘りします。

魔除けの役割を果たすシーサーは 13 世紀から 14 世紀ごろ中国から伝わってきたとされていて、南城市の大里字南風原石彫魔除獅子」や八重瀬町富盛地区の富盛の石彫大獅子が昔の姿を残しています。



南風原石彫魔除獅子



富盛の石彫大獅子



村の石彫獅子の後は、赤瓦屋根の上に漆喰を使ったシーサーが登場します。一説によるとこのシーサーは一つ一つにこだわりがあり、赤瓦屋根を作るときの漆喰職人の腕の見せ所でもあったようです。時代が流れ、赤瓦屋根の家が少なくなってきたころ、家の門扉の上にシーサーは降りてきました。その時代ごろから、対となったシーサーの一方が口を開け、一方が口を閉じた、他県の狛犬のような形状となったと言われています。

目を海外に移すと、エジプトのスフィンクスも獅子に似ています。東南アジアにも獅子のようなものがあり、外国の様々な地域でシーサーと同じような魔除けなどがあり、交通手段が今より整っていない昔から文化のつながりがあることが想像できます。



2 回にわたり学校便りで沖縄の面白い不思議なことを取り上げてみました。身近なことにも関心を持ち、深掘りをしてみてはいかがでしょうか。とても楽しいですよ!!